

第1回 旧橋ウインドパーク利活用者検討委員会会議録（要約版）

1 日 時 令和6年8月22日（木）14時00分から15時46分まで

2 場 所 周防大島町役場大島庁舎 3階大会議室

3 出席状況 欠席者なし

4 資 料

(1) 事業計画書等

(2) 審査票

(3) 審査における採点方法等について

(4) 財務分析結果

5 内 容

○ 会議については、応募者の管理運営に関するノウハウ等が含まれているため、非公開とすることに決定した。

○ 応募者からの事業説明、質疑応答後に採点・採点集計を行い、利活用候補者を決定した。

6 質疑応答

(1) A者

（A委員）本施設での業務に従事される従業員数、周防大島町内で採用を考えている従業員数の計画などはあるか。

（A者）本施設の従業員は4名から5名を考えている。蒸留所長以外の3名から4名は地元雇用を予定している。さらに蒸留所事業に付帯する形で、レストランや近隣で展開する予定のビラや古民家ホテルの運営も含めると各施設ごとに3名から4名のスタッフが必要となるが、地元雇用を促進する形をとっていきたいと考えている。

また、将来的には全国各地の蒸留所向けの樽の生産などの産業創出も視野に入れている。

（A委員）毎年8月16日は周防大島でも一番大きなイベントである周防大島花火大会を開催している。安下庄に1万人もの人々が訪れる。その際にウインドパークのグラウンドを臨時駐車場として使用しているが、引き続き8月16日の1日限定でグラウンドを駐車場と使用することは可能か。

（A者）今後ウイスキーの熟成庫を少しずつ増やす予定で、グラウンドにコンテナのようなものを積んで貯蔵庫にすることを考えている。ただし、グラウンドすべてをすぐにコンテナで埋め尽くすわけではないので、駐車場として使用していただいて大丈夫である。

（B委員）計画の最初の年に9億円、3年目までに毎年5千万円ぐらいの資金が必要と見込まれているが資金調達の目途についてご説明願いたい。

（A者）まず、先売りのNFTという形での資金調達を考えている。NFTというのは、電子的な会員証

のようなもので、ウイスキーを熟成する樽のオーナーとしてのステータスを合わせた会員証的なものになる。また、地元金融機関の地域再生、地域振興の観光促進のファンドであったり、東京の金融機関とも協議を進めている。各株主様のご協力や、金融機関との協議を進めて財務の面も早急に固めていきたい。

(B 委員) 周防大島町にウイスキーの蒸留所を作ろうと考えたのは、周防大島町がウイスキーの産地となりうると判断したからなのか。

(A 者) スコットランドにウイスキーの蒸留で有名なアイラ島という島があるが、そこにあるウイスキー貯蔵庫のある場所が、ウインドパークの海に面していたところと似ていた点と、マッカランという蒸留所がウインドパークと同じような丘を持っており、この2点を見たときに、非常にウイスキーに適したものができるのではないかと感じた。また、熟成の面白さがこの土地ならではのウイスキーを生んでくれるのではないかと考えたことによる。山口県で最初の蒸留所をぜひここに作らせてもらいたい。

(C 委員) 島の国道がある北側は観光客が流れるが、島の南側は流れにくい。今回の提案は非常にそういった面での活性化にもつながると思われる。ただ、提案の中にこの施設と観光を連動させるとあるが、具体的にはどのように考えているか。

(A 者) 熟成庫などのギャラリーを見ていただくだけではなく、蒸留所のテイスティングルームで島の名産や特産品を使用した食事やアテを提供させていただいて、地元の海産品・農産品の購入に繋げていけると考えている。

(A 委員) 事業内容の評価のところに、災害時の対応など町や地域との連携面に十分配慮した内容になっているかという項目があるが、そのあたりのお考えを説明していただきたい。

(A 者) 災害時に、地域に役立てる企業でありたいと考えているので、今後その辺りも加味していきたいと考えている。

(D 委員) 蒸留する際に、騒音や匂いの問題はないのか。また、排水を河川や海にそのまま流すということはないということで良いか。

(A 者) 騒音は全くない。匂いについては、蒸留所内ではコーンフレークのような香りがするが外部に漏れることはない。排水についてもろ過システムなどでしっかりと処理して対応する。

(E 委員) ウイスキーの製造には水が重要だと思うが、水源をどうやって確保するつもりかご説明願いたい。

(A 者) ウイスキー製造に1日10万リットルの水を使用すると思われるが、上水道を利用する予定である。町の水道部局とも協議している。

(F 委員) 樽の権利販売というのはすでに始まっている形態なのか。

(A 者) モエヘネシーディアジオ社がやるヘネシーブランデーなどは始めている。商品自体を流通させなくても、電子流通でいいので大分増えてきているが、日本では3社ぐらいの実績となっている。

(G 委員) 周防大島はみかんの産地なのでみかんを利用する商品などの予定はあるか。

(A 者) ウイスキーとみかんのマーマレードなどの商品を作ってお客様にご提案することは考えている。

8 審査採点及び採点結果の発表

(椎木委員長) 採点の結果、A者の採点は総得点 688 点、平均で 76.4 点となりました。参考基準点 60 点を上回っておりますので、A者を旧橘ウインドパークの利活用候補者としてよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(椎木委員長) 異議なしということなので、そのように決定をいたします。

9 講評

- ・応募者のウイスキーに対する強い想い、周防大島を盛り上げていきたいという気持ちを感じた。事業計画書にもあるように、分散型ホテル、地域連携した飲食店といった素晴らしい提案もあった。将来的には樽の製造工場も作るという構想など、地域貢献に非常に優れた提案であると感じた。
 - ・周防大島の観光は北側はいいが、南側に観光の目玉がないので、そういった目玉になることが期待される施設ができるのは非常にいいことだと思う。ただ、3年間収入がないというのはやや心配である。
 - ・壮大な事業計画であり、現在使われていない施設が使用されるのはいいことだと思う。いろいろな提案も魅力的な提案であった。
 - ・橘ウインドパークは地元の人々にとっては非常になじみのある施設なので、これが利活用されることに期待している。
 - ・観光と連動した非常に魅力的な提案である。地域活性化にも寄与すると期待している。
 - ・今回の新しい事業による旧橘ウインドパークの利活用によって、地域振興はもとより、周防大島町の他のところにも良い波及効果が得られると考えている。
- また、人口が減少する中で、水道の給水量が大きく増えることも非常にありがたいことである。